

# 広げよう！優良実践の輪！

～平成28年度 頑張る学校応援事業 優良実践校の取組～

取組 21

## 豊かな心の育成を目指した 組織的な取組

井原市立荏原小学校

### 1 はじめに

本校は、児童数108名の学校です。戦国の武将、北条早雲の生誕の地である高越城址が近くにあり、教育活動の取組の中で本校の特色として生かしています。

### 2 本校の課題

本校の課題として、「児童の学習意欲の向上」と「落ち着いた学習環境づくり」、「若手とミドルリーダーの育成」がありました。これらの課題に対する取組と成果について、概要を紹介します。

### 3 本校の取組

(一) 学力向上に向けた落ち着いた学習環境づくりのために

①「荏原っ子六か条」による指導  
北条早雲が制定したと伝えられる「早雲寺殿廿一箇条」にあり、第一条「礼儀」を始めとして「思いやり」・「感謝」・「努力」・「責任」・「奉仕」からなる児童のくらしのめあて「荏原っ子六か条」を設けました。特に第一条「礼

儀」では「語前後礼」を徹底することで、「礼儀」に対する意識が高まり、くらし全般により影響が見られました。  
②あいさつ運動の推進



全校で取り組むあいさつ運動(2年生)

児童会の取組として、曜日毎に各学年の児童が校門前に立ち、本校オリジナルののぼりを持って、あいさつ運動をしています。地域の方々からは、「あいさつの声だけでなく、お辞儀もしてくれる」、「丁寧なお礼やあいさつを言ってくれてとてもうれしか

った」というお褒めの言葉をいただいています。  
③第六条「奉仕」による自己有用感の育成

「もくもく」「みつめて」「じかんいっぱい」を合い言葉に「もみじそうじ」に取り組んでいます。チャイムとともに静かになる校内で、黙々と掃除をする児童の姿を見ることができるようになりました。さらに、1の付く日を「一日一善の日」として、進んで奉仕活動をするようにしています。他の役に立つ活動により、自己有用感の育成を図っています。  
(二) 学力向上のために

「量のないところに、質の変化はない」を取組のスローガンとして、基礎・基本の定着のために繰り返しを重視した指導を続けています。補充学習の充実のために朝の学習とともに、毎週水



補充学習(ボランティアの方々)

曜日の6校時を全校で「スキルアップタイム」として設定し、担任の指導を地域のボランティアの方々や担任以外の教職員が支援し、指導の充実を図っています。昨年度の全国学力調査では、全国1位となった県の平均を上回る結果となりました。

### (三) 教職員の育成のために

①OJTによる人材育成  
本校では「OJT+(プラス)」として、年齢だけでなく勤務経験年数を加味した三つのチームを構成し、授業改善・生徒指導上の問題への対応等を行っています。

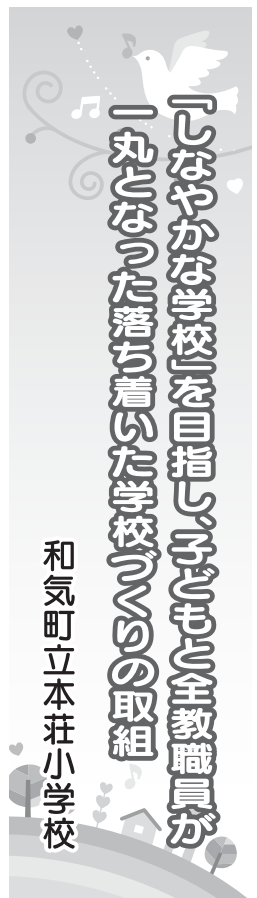
### ②人材育成の指針

「高める三つの力」と「支える三つの心」からなる、「荏原小教職員六か条」を掲げ、教職員の成長の指針として取り組んでいます。

### 4 成果と課題

豊かな心の育成を基盤として学力の向上をめざし、ある程度の成果が見られました。しかし、落ち着いた学習環境づくりが依然として課題であり、さらに応用力の育成が課題となっています。これらの課題の解決に向け、全教職員でさらなる徹底と指導力の向上をめざしていきたいと思っています。

(校長 森川 孝一)

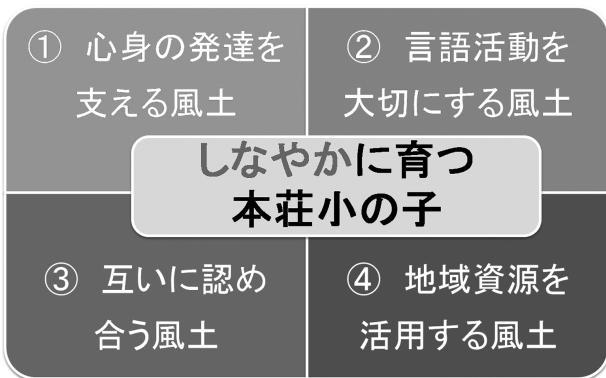


### 1 はじめに

本校での、学校全体が落ち着いてきている指標の一つとして、日本スポーツ振興センター災害共済発生率を取り上げてみます。平成24年度の13%をピークに、この2年間の平均では、4%（全国平均は約6%）と大幅に減少しています。「だまつて掃除」の徹底や、児童会による廊下歩行の仕方や休み時間の過ごし方やメディアコントロールの推進などの呼びかけにより、児童は、「きまりを守る」ことの意義や心地よさを意識できるようになるとともに、自己管理の力が高まり、落ち着いた学校生活を送ることができるようになってきています。

### 2 取組の経過と概要

「子どもと教職員が共に育つ『しなやかな』学校、若手とベテランが共に学び合う『しなやかさ』あふれる教職員」を合言葉にしています。全教職員の意識が統一し、落ち着いた学習環



子どもと教職員がともに育つ四つの風土

境を確保し、学力向上に繋<sup>つな</sup>げるために「しなやかな学校」に向かう四つの風土を設定しました。これらの四つの風土の取組の概要を紹介します。

- ① 心身の発達を支える風土
- ・児童の主体性を育む活動の充実（渋川での長期宿泊体験活動）

- ② 言語活動を大切にする風土
- ・魅力ある授業づくりの展開
- ・放課後学習サポートの充実
- ・本年度県社会科研究発表会開催

- ③ 互いに認め合う風土
- ・自己の生き方を豊かにする道徳学習のさらなる充実
- ・児童の主体的な活動の促進のための「グリーン週間」の取組

- ・児童の発想による自立、自己実現の技能・能力の育成
- ④ 地域資源を活用する風土
- ・キャリア教育の視点に立った論語学習等の推進
- ・学校だよりの全戸回覧



3泊4日の渋川海事研修の一コマ

### 3 おわりに

「規則正しい生活が、こんなにはすがすがしい気持ちになるとは思わなかった」渋川海事研修の退所式での児童のコメントです。今年の5年生も、先輩の後に続き、「渋川で変わる本荘の子」に期待を寄せています。

今後も、四つの風土に水や光をしっかりと取り入れ、地域に貢献する「頑張るしなやかな学校」として自他共に称されるよう進化を続けます。

（校長 土井原 康文）

全教員の連携による落ち着いた  
学習環境づくりの取組

津山市立中道中学校

1 はじめに

本校は、数年前、学校全体が落ち着いた学習環境の中で授業ができない状況がありました。

そこで、「当たり前のことが当たり前にできる学校」を合い言葉に、全教員の情報交換や話し合いによる共通理解・共通行動をもとに粘り強く改善に向けて取り組んできました。

2 現状分析

本校の姿を分析・検証するために、マルチレベルアプローチの視点からの分析とアセス（学校環境適応感尺度）の因子間相関図の視点からの分析を行いました。

その結果として、一次的支援、教師サポートは手厚いが、友人



校内研修の様子

間サポートが少ないという分析結果を得ました。これをもとに、今後も「ルールの定着・規範意識の向上」を基盤にしながら、「生徒同士で認め合い、支え合う集団づくり」を取組の軸にするという共通認識ができました。

3 取組の実際

(1) 当たり前3カ条

学校生活や生徒会活動、部活動等において、「〇〇〇の当たり前」を決め、意識を高め、学校全体で共通理解・共通行動ができるように取り組みました。

あるべき姿をより具体的にわかりやすく示し共通認識することにより、指導・支援を徹底して進めてきたことが、落ち着いた学習・生活環境をつくる上で効果があったと考えます。

(2) 集団活動の充実

生徒会活動の活性化にあわせて、学校行事を通して、校歌を大きな声で誇りをもって歌えるようにしようと、1年歌声コンクール↓総体壮行式↓体育会↓文化発表会というように、計画的、継続的に、取り組みました。

生徒が主体的に活動を行う姿も見られ、達成感をもたせることができました。



美作地区総体壮行式での校歌熱唱

4 おわりに

現状のようになった要因は何か、さらに、何が足りないか、そのために、具体的に何をしていくことが必要かを全教員で分析、共有することにより、取組の整理と方向性の確認ができました。

今後も、生徒の自治的・自律的態度の育成、学習意欲・学力の向上をめざしていきたいと思

(校長 芦田 俊彦)

# 心豊かな子ども の育成を目指した 道徳教育の取組

岡山市立芳田中学校区  
（芳田小学校・芳明中学校・芳田中学校）

## 1 はじめに

岡山市立芳田中学校区は、岡山市内の南部に位置し、住宅地が多い地域です。学区には岡山市立芳田中学校、同芳田小学校、同芳明小学校があります。

最近、問題行動が増加傾向にあり、また、授業が落ち着かず生活規律に課題がある児童生徒が多くなってきました。

そこで、小学校と中学校が連携し、「芳芳<sup>よしよし</sup>プラン」を作成し、統一テーマを「思いや考えをもち、伝え合い学び合う子どもの育成」として道徳教育を糸口に取組を進めることにしました。

## 2 取組の様子

### (1) 芳田中学校

中学校では教員に道徳の時間の指導に苦手意識があるため、効果的な授業の展開や発問を検



道徳の時間についての研修会

討する研修会を定期的に行き、教員の指導力を高めることにしました。特に、環太平洋大学・平松茂特任教授を講師に中心発問の検討方法について継続的に研修しています。

その結果、日頃から学年ごとに道徳の時間の展開を検討する会が行われるようになりました。

### (2) 芳田小学校

児童が自らの生き方を見つめ直すきっかけとなればと、道徳教育及び福祉学習の一環として「あの人の生き方に学ぶ講演会」を実施しました。脳性マヒのため車いす生活を送りながら、各地のマラソンに出場したり、ブラインドサッカーのコーチをしたりしている講師の話聞きしました。

講師の生の声や姿がもつ力は大きく、他者への理解・自らの行動や態度の変容につながる感想や意見を全員の児童がもつことができました。

### (3) 芳明小学校

本校では、道徳教育重点目標を設定し、授業づくりに取り組んできました。その結果、児童の道徳的価値の定着は少しずつ成果として現れてきていますが、授業の中で児童の主體的な発言が少なく、自分の言葉で表現する力を付ける必要があるという課題も明らかになってきました。

そのため教職員研修では、指導教諭によるカリキュラムマネジメントの視点から目標の重点



あの人の生き方に学ぶ講演会

化設定の考え方や問題解決的授業の試みについて研修しました。また、実際の授業では伝え合う活動を通して互いの理解を深め、児童の主體的な活動になるよう、様々な工夫を試しながら現在も実践を継続しています。

## 3 今後の更なる取組の充実

三校が連携した道徳教育をさらに推進していくとともに、スマホなどのメディアに依存しないよう学区の幼稚園とも連携して生活規律の立て直しに取り組んでいくところです。

（芳田中学校長 馬場 善久）

# 玉中学校区一貫教育の推進 子どもたちの笑顔を作る4つの連携

玉野市立玉中学校区  
（玉小学校・玉原小学校・玉中学校）

## 1 はじめに

玉野市には、七つの中学校区があります。それぞれの中学校区で、学校園が一貫した教育支援に取り組み、系統的・継続的に子どもたちの健全育成を図る様々な校種間連携が推進されています。さらに、玉野市では、平成27年度から、より強い学校教育の構築を目指して、「地域ぐるみの中学校区一貫教育」を重点事項として推進しています。こうした中で、玉中学校区では、平成19年度より目標を明確にした小中連携の取組を始めました。さらに、就学前から小学校、中学校までの視点に立って子どもたちを育成し、地域の子どものちをみんなで育てていこうという共通理解のもと、学校を開き、保護者や地域の人たちと協力を深めるとともに、関係機関とも連携を図ってきました。

## 2 玉中学校区の四つの連携 （1）小中連携



あいさつ運動

三校の管理職や教職員が変わっても継続できる小中連携を目指して、小中連携マニュアルの作成や組織づくりを行いました。現在、管理職で構成する「小中連携連絡会」を柱に、「学力向上部会」「生徒指導・保体部会」「人間関係づくり部会」「学校保健安全部会」「特別支援教育部会」「教育課程部会」の六つの部会があります。各校の保護者

も月に一度の「ノーマメディアデー」の取組などを通して、小中連携を推進しています。その他、年三回実施する授業公開や合同研修会を通して教職員同士の交流を行っています。児童と生徒も小中合同のあいさつ運動や算数ポランティアなどで交流しています。現在では、玉野市全中学校区で、小中連携、中中連携に係る兼務体制が確立されています。

### （2）園小連携

玉原小学校区では、保幼小連携を平成23年度に始め、かけはしカリキュラムを中心に、教職員同士の交流や児童と園児の交流を行っています。玉野市全園小でも同様の取組を行っています。

### （3）地域連携

玉中学校区では、三校ともに、学校支援地域本部事業に取り組んでいます。さらに、玉中学校区青少年健全育成連絡協議会のメンバーも加わり、開かれた学校づくりをめざし、地域の方の力を借りて、登下校の見守り支援、学習支援や環境整備の充実を図っています。また、玉小学校、玉原小学校ともに学区にある工場見学を行っています。地



読み聞かせ

域の企業とタイアップして小学校のころから地域の工場見学をする機会を増やし、キャリア教育を推進しています。

### （4）関係機関との連携

様々な課題に応じて、多くの関係機関と相談や情報交換から指導、ケース会議などを通して解決に向けて連携を進めています。

## 3 おわりに

こうした取組により、小一プロブレムや中一ギャップを感じることが減り、各校で校内外を含め、落ち着いた雰囲気醸成されています。今後とも玉中学校区一貫教育を深化させ、推進していきたいと考えています。

（前年度玉原小学校長

前野 慶次）